

社会科学学習指導案

実施日 平成17年10月24日～11月4日
 学級： 県立中央中等教育学校 2年1,2,3,4組
 指導者： 企画調査G 長期研修員 小林 禎

単元名 世界と日本の産業・資源

単元の考察 (...省略)

単元の目標

世界と日本、群馬県と日本の比較を通して、日本の産業に関する特色を大観させるとともに、比較や関連付けなど、地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けさせる。

評価規準

	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況
社会的事象への関心・意欲・態度	・県内の事例から、日本の産業に対する学習に関心を持ち、社会と自分のつながりを感じ、社会に関わろうとする。	・県内の事例から、日本の産業に対する学習に関心を持つ。
社会的な思考・判断	・世界と日本、群馬県と日本の比較を通して、日本の産業の課題に対する考えを、環境条件を考慮して自分なりに持つ。	・世界と日本、群馬県と日本の比較を通して、日本の産業の課題に対する考えを自分なりに持つ。
資料活用 of 技能・表現	・地図や統計資料を正しく読み取り、日本の産業の特色や意見を的確かつ端的に表現する。	・地図や統計資料を正しく読み取り、日本の産業の特色や意見を自分なりに表現する。
社会的事象についての知識・理解	・日本の産業の特色を世界的視野から、環境条件も考慮して理解し、知識を身に付ける。	・日本の産業の特色を理解し、知識を身に付ける。

指導方針

つかむ過程では、単元の学習全体の興味・関心を高めるため、工業立国、技術立国である日本の特色が表れ、群馬県にゆかりのある工場や技術者を取り上げる。

追究する過程、まとめる過程では、社会に対する興味・関心を高めるため、導入時に以下のように郷土教材を活用する。

- ・「世界の資源と日本」では、渋川市周辺から見える、大きなサージタンクを持つ発電所を上毛カルタの「理想の電化に電源群馬」と関連させて提示する。
- ・「工業立国・日本の特色」では、全国的に活躍する群馬県内の企業スポーツチームを、工業生産額の高い市町と関連させて提示する。
- ・「日本の水産業」では、群馬県の漁業（漁獲高やコイの生産）を、環境条件と関連させて提示する。
- ・「日本の食糧自給率を考える」では、郷土料理と和食を、材料の自給率と関連させて提示する。
- ・「地元商店街復興計画」では、生徒に身近な小売店や前橋市の商店街を、産業別人口比や環境条件と関連させて提示する。

追究する過程、まとめる過程では、展開の最後に、以下のように意志決定をする学習活動を設ける。

- ・「世界の資源と日本」では、日本の資源・エネルギーが海外に依存していることを理解した上で、日本はどのようなエネルギー政策をとったらよいか考えさせる。
- ・「工業立国・日本の特色」では、加工貿易に大きく依存していることを理解した上で、円高の状況下、自動車製造会社の経営者だとしたら、どのような対策がよいか考えさせる。
- ・「日本の水産業」では、漁業資源の過半数を海外に依存していること、乱獲により漁業資源が減少していることを理解した上で、（マグロ好きなのに）マグロが食べられなくなったらどうするか考えさせる。
- ・「日本の食糧自給率を考える」では、日本の自給率がたいへん低く、食料の多くを海外に依存していることを理解した上で、食糧自給率は、そのままでもよいか、上げた方がいいか考えさせる。
- ・「地元商店街復興計画」では、郊外型大規模店舗や中心商店街の状況を理解した上で、商店街を賑わわせる方策を考えさせる。

追究する過程、まとめる過程では、授業後の社会に対する興味・関心・意欲を高めるため、授業のまとめの時、以下のように郷土教材を活用する。

- ・「世界の資源と日本」では、群馬県でも、風力発電やバイオマス発電など、新エネルギーに対する取り組み

みが行われていることを説明する。

- ・「工業立国・日本の特色」では、県内でも販売されているハイブリット自動車や未来志向の自動車を紹介する。
- ・「工業立国・日本の特色」では、群馬県内には労働者等の登録外国人が全国比で高いことを、市町名や数字を挙げて説明する。
- ・「日本の食糧自給率を考える」では、食糧自給率を上げることと関連した地産地消の動きを、「すくすくカルタ」や県産食材を使用した学校給食などを例に説明する。
- ・「地元商店街復興計画」では、前橋市・にぎわい課の具体的な取り組みの様子を説明する。

単元全体を通して、生徒の興味・関心を持続し、理解をしやすくするため、必要な画像や指示等をスライドショーにまとめ、プロジェクターで投影する。

単元全体を通して、生徒が思考しやすくするため、また授業後に学習を振り返ったり、発展的に学習をしたりしやすくするため、資料プリントを配布する。

単元全体を通して、生徒の様子を把握し、次の授業に生かすために、同じ質問に同じ形式で答える時間を設ける。

指導計画

	主なねらい(形態)	学習内容	主な指導・支援	評価(評価方法)(観点)
つかむ	1	群馬発！世界を支える技術	群馬にゆかりのある企業の概要、業務に 取り組む姿勢を学び、日本の産業の学習に 対する興味・関心を持つ(一斉)	商標や製造過程の材料、外国のホッチキス、実物などを提示し、考えさせる。生産量とスピード、所得など、生徒に理解しやすいよう、数値を提示して説明をする。軍需産業から転換した工場は他にもあることも具体的に説明する。箱詰めは、機械でもでき、安く済む。福祉施設にとっては訓練になることから、地元企業として社会貢献を目的として依頼していることを説明する。使う人の意見を取り入れて、よりよいものを作っていこうとする姿勢に気付かせる。なぜ平らに綴じられるのか、従来のものと比較して簡単に説明する。コストを考えて、海外に工場が進出していること、製造工程や製品に関して環境を意識していること、多品種少量生産で客にニーズに応えようとしていることなどを説明する。世界で使われている自動車やCD、CD-Rメディア、冷凍冷蔵用ショーケースなどを製造する企業を取り上げる。 【評価】学習に対する興味を持つ(ワークシート・観察)(興)
追究する	2	世界の資源と日本	どのようなエネルギー政策が適切かを考え、日本は資源に恵まれていないことを理解する(個人・一斉)	上毛カルタに描かれていた東京電力佐久発電所の写真が何かを考えさせることで、学習への興味・関心を持たせる。群馬県も日本も、火力と原子力に頼っていることを統計資料の読み取りから気付かせる。その燃料になるのは石油やウランで、それは海外に依存していることを理解させる。発電用燃料から調べ始め、他の資源についても調べる。教科書掲載主題図では、日本の資源量が分からないので、数値でも提示する。 【評価】日本は資源に恵まれていないことを理解する(ワークシート)(知)
			統計資料のグラフや「理想の電化に電源群馬」の説明から、かつては水力による発電の比率が高かったことに気付く。群馬県で使われる電力はどこで作られているか考え、昔に比べ、エネルギーの供給量が増加していること、海外依存率が高くなっていること等に気付く。主題図や統計資料を調べ、日本は鉱産資源に恵まれていないこと、その多くを海外に依存していることを理解する。日本のエネルギー政策は、どうすべきか考える。群馬でも新エネルギーに対する取り組みが始まっていることに気付く。	日本の政策として、どうすべきか選択肢から選び、理由を考えさせる。発電の概要については、資料プリントや説明から理解させる。 【評価】どのようなエネルギー政策が適切か考える(ワークシート)(考)
			吉岡町の風力発電所、伊勢崎浄化センターのバイオマス発電、高浜発電所のゴミ発電などを取り上げ、授業後の資源やエネルギーに対する興味・関心・意欲を高める。	

3 工業立国 日本の特色	<p><u>日本の工業の特色を、統計資料を読み取り、群馬県や外国との比較を通して理解する(個人・一斉)</u></p> <p>県内で活躍するスポーツチームと関連させ、県内で工業が盛んな地域はどこか考え、学習に対する興味・関心を持つ。日本の大企業にはどんなものがあるか考え、日本は工業が盛んな国であることに気付く。 教科書掲載の統計資料から、日本の工業の特色、地域ごとの工業の特色を、群馬県内や外国との比較を通して理解する。 日本の工業の課題について、その概要を理解する。自分が会社の経営者になったつもりで、工場を海外に移転するか、国内で賃金の安い労働者を雇うか、それとも付加価値をつけて生産し値段をあげるか、考えさせる。</p>	<p>工業生産額1位太田市(野球、駅伝)、2位大泉町(ラグビー)、4位高崎市(ソフトボール)を挙げる。 「世界の大企業」の統計から、第3次産業をのぞくと、日本の大企業には機械工業が多いこと、世界的に見ても規模の大きい企業が多いことに気付かせる。 大企業に注目させるが、日本の工業を支えている工場の多くは中小規模の工場であることにもふれる。 群馬県や北関東工業地域、日本の特色を比較して考えさせる。世界の工業生産額の割合や貿易品の統計資料を調べる活動を通して日本の工業の特色をより明確にさせる。 <u>[評価]資料の読み取りや比較から日本の工業の特色を理解する(ワークシート)(知)(資)</u> 貿易摩擦や円高により、製造コストを抑えるため製造業の工場海外移転が進む。また、コストを抑えるため国内では外国人労働者の雇用が増加してきた。その経緯を簡単に説明した上で考えさせる。 群馬県の外国人居住率は全国的に見ても高い。また、地方自治体別に見ると、大泉町は全国で一番居住率が高い。そのことは統計の数値を提示する程度にとどめる。</p>
	<p><u>資料を調べ、水産業は環境条件と大きな関連があることを理解する(個人・一斉)</u></p> <p>群馬県の漁獲高の全国的な地位を考える。海に面していないことなどから、淡水魚の漁獲高があること、全国的に見るとあまり漁業が盛んな地域ではないことに気付く。 地図帳や統計資料を調べ、好漁場の条件や、日本で食べる魚は半分を海外に依存していることに気付く。 水産業に関する問題(漁業資源の減少、後継者不足、排他的経済水域など)に関する説明を、理由を考えながら聞き、その問題が自然や社会などの環境条件によって生じていることを理解する。それをふまえて、マグロが食べられなくなりそうになったらどうするか考える。</p>	<p>群馬県と全国の漁獲高の数値を提示する。低い理由は、生活経験から考えさせる。 群馬県ではコイの漁獲高が比較的大きいことを、地形(ため池)や産業(養蚕業)などと関連させて説明する。 三大漁場の環境条件を、海流の潮目と水深(大陸棚)の2つに絞って、地図帳や教科書と対比させて考える。 資料活用能力を高めるため、どの資料から調べられるのか明確にした上で作業をさせる。 魚介類を輸入に頼る現状を、生徒が理解しやすいよう、回転寿司のネタを例とする。 <u>[評価]日本の魚はどこから来るのかなどについて資料を調べ理解する(ワークシート)(資)(知)</u> 漁業資源の減少に関しては、大西洋のタラの問題を取り上げる。排他的経済水域の問題に関しては、領土の問題とも関連させて説明する。生徒に分かりやすく説明をするため、深入りはしない。資源回復のための人々の取り組みは、鮎の資源回復や完全養殖クロマグロを取り上げて説明する。養殖や畜養の是非等については深入りしない。</p>
	<p><u>食料の多くを海外に依存していることに気付き、食糧自給率の問題について自分なりに考える(個人・一斉)</u></p> <p>“和食”「天ぷらそば」の材料を考える活動を通して、多くの食料が海外から輸入されていることに気付く。 食糧自給率の概要について、統計資料を調べたり、説明聞いたりする活動を通して理解する。 食糧自給率を上げた方がよいか、現状のままではよいか、自分なりに考える。 群馬県など、全国で行われている「地産地消」運動など、食糧自給率向上に対する動きについて知る。</p>	<p>伝統的な食品は、その地の食材を使い、環境条件の影響を受ける。それを、郷土料理「おきりこみ」などを例に説明する。その後、和食の材料の食糧自給率を考えさせる。 食料の海外への依存状況について、具体的な品目を例に挙げながら、理解させる。 食糧自給率の現状や課題を具体的に説明する。問題点は、 について考えやすいよう、整理し直して提示する。 上げた方がよいか、現状のままか、立場を明確にしてから考えさせる。根拠をはっきりさせるうちに立場が変わるのはよいことを告げる。 <u>[評価]食糧自給率の問題を自分なりに考える(ワークシート・観察)(考)</u> 群馬県制作の「すすくカルタ」の札や給食で出された地元産食材を使った料理を提示し、生徒が身近に感じられるようにする。</p>
5 日本の食糧自給率を考える まとめる		

6 地元商店街復興計画	群馬県や全国の商業の概要を知り、環境条件を地域の商業に生かすにはどのようにしたらよいか考える(グループ・一斉)	生徒が買い物に行ったことが多いと思われ、売上高の大きい、ベイシア、ヤマダ電機など郊外型大規模小売店舗を提示する。外資系の大型小売店も取り上げ、身近なところに外国から企業が進出してきていることに気付かせる。日本と群馬県の産業別人口比を提示し、共通していること、特色に気付かせる。全国の商店街で“シャッター通り”が問題となっており、中心市街地商店街の空洞化は前橋市だけの問題ではないことを説明する。商店街の比較や前橋市の自然条件・社会条件や長所などから、賑わわせる方策を考えさせる。2人ないし3人のグループを作り、相談しながら考えさせる。考えたことは、簡単に発表できるようまとめさせる。 <u>【評価】環境条件を商業にどのように生かしたらよいか考える(ワークシート・観察)(興)(考)</u> 前橋市の、地域の特色を生かした施策について、具体的に説明をする。今後、明るい展望が持てるようなものを提示する。
	普段どのような店に買い物に行くか考える。大型家電量販店やショッピングモールの写真や売り上げランキングなどの資料から、群馬県では、小売業の売上高が大きいことに気付く。前橋市の中心市街地商店街に設置された「にぎわい課」の存在から、商店街に現状に気付き、どうして商店街に賑わいが不足してきたのか考える。前橋市の環境条件や長所を考える。それをもとに、にぎわい課の事業を参考にして、どのようにしたら商店街が賑わいを取り戻すことができるのか考え、発表し合う。前橋市の現在の取り組みについて知る。	

本時 (…省略)

【資料5】 1、2学年社会科学学習指導案の系統図

